

工事作業ヤード内の安全対策について

大河原建設株式会社 川合重徳

工事概要

工事名 平成21年度 駿河海岸田尻海岸保全施設整備工事

工事箇所 焼津市田尻地先

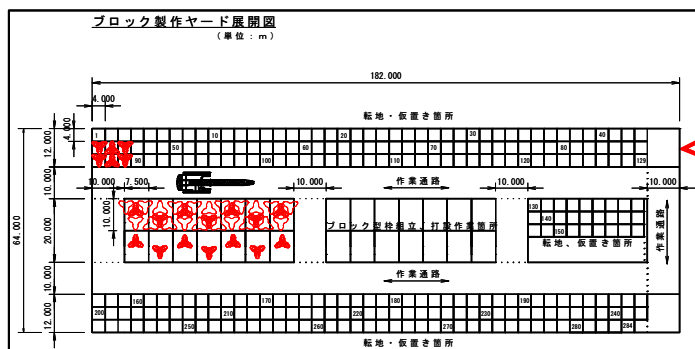
工期 平成21年10月8日～平成22年3月30日

施工 大河原建設株式会社建設

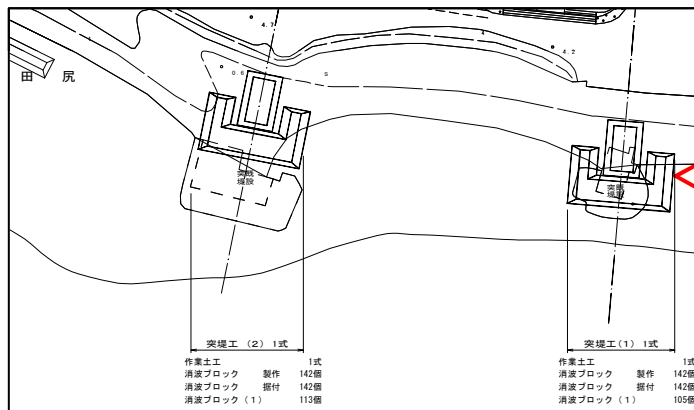
現場代理人 川合重徳 監理技術者 近藤和巳

工事内容 養浜工1式 消波工1式 突堤工1式

本工事は、焼津市田尻海岸の海岸浸食防止を目的として、消波ブロックの製作、据付け、養浜工による海浜の回復をはかるものである、工事工程全般において、大型重機(クレーン等)と作業員による作業となり、重機災害への対策を考慮した。



消波ブロック製作工の製作ヤード、縦64m、横182mでヤード中心でブロック製作を行い、両サイドへブロックを転置し、養生する。常に重機、工事車輛が行き来する。

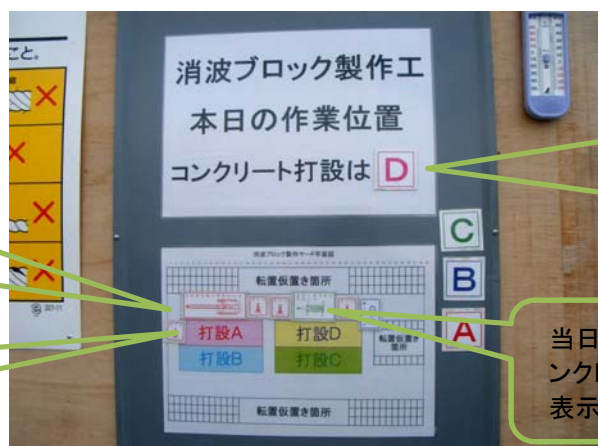


突堤工の施工箇所で作成したブロックを運搬し、据付けを行う。もともとは既設ブロックが存在し、撤去を行い、据付けを行った。常時200tクレーンを使用した。

1、ヤード内の作業位置の明確化 朝礼時に作業員全員にて確認し 作業位置を周知した

当日の120tクレーンの位置を表示した

立入禁止処置の表示をした



当日のコンクリート打設位置を表示した

当日の25tラフテレクレーンの位置を表示した

3、作業員の明確化

作業員に蛍光色のカラーチョッキを着用させ、各自の役割の明確化と、重機オペから見やすくした。

作業員はオレンジ色の
蛍光チョッキを着用した



職長は、職長を明示する
「職」の字を表示した

消波ブロック製作作業時



突堤作業時



施工時の「蛍光色のチョッキ」着用状況。遠くからも作業員の存在がわかる。

3、工事車両の明確化

120tクレーンの後部ウェイト部に旋回範囲の明示の為、チェッカーフラッグを取り付けました。
あわせて、作業員の重機施工半径内への立入禁止の徹底を喚起した。



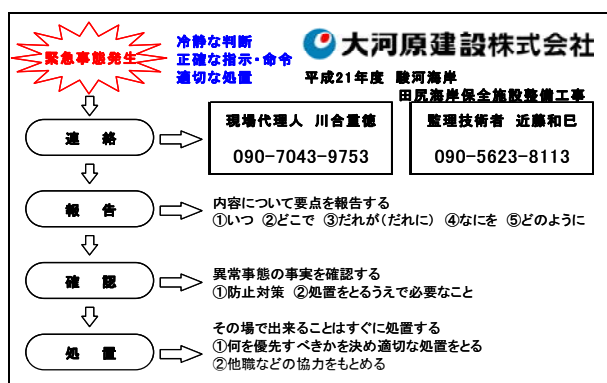
チェッカーフラッグ
の取り付け



120tクレーンの本体部の全景(後部より)

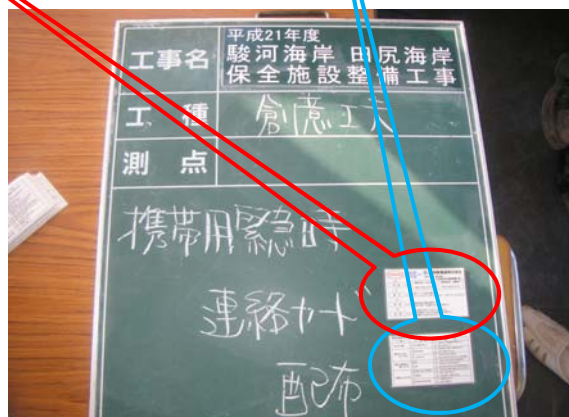
4、緊急時の対処方法の明確化

現場内で異常事態が発生した場合、速やかに連絡、対処が行われるように新規入場時に、作業員全員に、携帯用の緊急連絡表を配布し、携帯するよう指導した。



心構え	8 原則	概要
状況の判断	1 作業、運転等の中止	① 災害要因となった設備機械等の運転を中止する ② 関連する作業を中止する
優先的に何を 行うべきか	2 被災者の救助 3 二次災害の防止	① 災害の程度をよく把握し人命救助を最初に行う ② 救助する場所は安全であること ① 作業員を安全な場所に退避させる ② 監視人を配置し警戒と予防にあたる(立入禁止措置等)
報告・連絡等は 誰にするか	4 報告 5 連絡	① 作業所長、次席等に災害状況・程度を報告する ① 会社幹部に対し正確な状況を報告する ② 被害等の場合は被災者の近親者・監督等々に連絡する
処置はどうするか	6 目撃者、参考人等の確保 7 現場保存 8 作業員の気持ちの配慮	① 目撃者(第三者の場合は連絡方法)をはっきりさせておく ① 場合により仮囲い等をする ② 作業員を配置して現場保存に努める ① 災害現場から遠ざける ② 詰所内で待機させる

新規入場時教育の実施、合わせて
携帯用緊急時連絡表を配布した。



5、まとめ

施工管理、品質管理、工程管理、どれも重要な管理項目だ、しかし、一つの事故ですべてが台無しとなる事がある、安全第一とはいつの時代から言われ続けているのか分かりませんが、作業現場での一番のスローガンだと思う。今回、工程全般を通し、大型重機と作業員の混在作業となったが、事故なく無事完工出来た、安全体制にゴールはないでしょうが、そこを目指していくことが私たちの第一の仕事であると考えているのである。